

あたらしい労働運動を模索する皆さんへ

皆さんは、会社入社当時、右も左もわからない中で、「第一組合だから」、「皆が入っているから」等といった理由でJR総連・JR東労組に加入した方が多いのではないかと思います。私たちジェイアール・イーストユニオンの組合員の多くも、以前はJR総連・JR東労組に所属していました。

しかし私たちは、JR東労組の独善的な機関運営に危機感を抱き、このままでは極めて左傾化した労働運動へ突き進み、社会からの信頼は得られず、社員・家族の幸せはおろか、会社の存立をも揺るがしかねない事態に陥ると考え、JR総連・JR東労組に見切りをつけ、JR連合に加盟しました。そして、JR連合8万2千名の仲間と共に、「JR総連・JR東労組に極左暴力集団である革マル派が深く浸透している」と警鐘を鳴らし続けてきました。ある時は運転士がJR東労組からの陰湿で暴力的なイジメを受け、乗務から外され望まぬ出向となってしまった境遇から、再びハンドルを握ることが出来るようお手伝いをし、またある時は浦和電車区事件（脱退・退職強要事件）の被害者をJR東日本へ復職するお手伝いをするなど、被害者救済運動、社会的正義のたたかいを展開してきました。この間、私たちの組織は離合集散を繰り返しましたが、JR東労組に言論を封殺されながら仕方なく所属してきた良識ある組合員の皆さんに対し、裏表の無い、『組合民主主義を貫く』という信念に基づく訴えをしたいと考え、敢えて少数の道を選び歩んで来ました。

このたび、皆さんは「自分の考えで選択」し「自分の道を歩き始めた」のだと考えます。一方で、将来のことまでは具体的に考えられていない方もいようと思います。そこで問いたいのは、「労働組合は本当に不要なのだろうか？」ということです。労働組合とは、組合員の声に真摯に耳を傾け、意見や感情を汲みとりつつ、労使の信頼関係を大前提として、企業の健全な発展を求め、チェック・提言機能を果たす能力を持つ組織です。また、社会・地域との不可分な関係や、政治への影響力を持ち、社会の安定・発展・正義などを求める取り組みを行い得る組織です。だからこそ、労働組合とは「仲間同士の助け合い」を本分とし、一人ひとりの組合員が主権を持ち、民主的な手続きで意思決定と機関運営がなされる組織でなければならないと考えるのです。

JR東日本は、鉄道界の代表的企業として、上述のような機能を持った「労働組合」が存在しない中で独りよがりな事業運営を行えば、社会から「健全」とは認められないこと、お客様や株主からの信頼を得られないことを分かっています。組合員に真摯に向き合い「組合民主主義を貫く労働組合」こそが、真に健全なパートナーとして必要なのだと認識しているのです。だからこそ社長自ら、「誰かがやってくれるのを待つのではなく、一人ひとりが、新しい時代を創っていく当事者であるという自覚と気概を持ち、今の仕事の中で何をなすべきか、自ら考えて行動することが何よりも大切なこと」と呼びかけ、訴えているのだと思います。

JR東日本の労働組合が、社会の一員として役割を果たし、社員・家族の幸せを実現していくためには、「働く者」が集う「連合」に加盟することが大切です。より多くの「働く者」が社会的に繋がり連帯することが、「働く者」の地位向上、家族の幸せ、ひいては会社の健全な発展にも繋がるからです。そして、連合への加盟は「産業別労働組合（産別）」に所属していることが要件となっています。すなわち、真に民主的な労働運動を追求し、連合・社会からの信頼を得ているJRの代表産別「JR連合」への加盟が必要なのです。

新たな組織を創るには、大変な時間と労力がかかるでしょうが、私たちは、JR連合に加盟しているJR東日本内の唯一の労働組合として、会社との労働協約締結や給与控除の手続きなども行っており、様々なサポートを行うことが可能です。今後、特に若い社員の皆さんは、これからの30年を考えなければなりません。社員・家族の幸せ実現、会社の健全な発展のために、そして一刻も早く社業に純粋に専念できるようにするためにも、個々に思い悩むのではなく、私たちと運動を共にし、未来を語ろうではありませんか。JR東労組に見切りをつけた皆さんが、私たちへ加入し、共に助け合える仲間となることを心からお待ちしています。

2018年4月

ジェイアール・イーストユニオン
中央執行委員会